

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970100271		
法人名	社会福祉法人 長い坂の会		
事業所名	グループホーム ほのぼのの家		
所在地	高知県高知市朝倉丙1633-17		
自己評価作成日	令和元年7月22日	評価結果 市町村受理日	令和元年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は閑静な住宅街にあり、高齢者が落ち着いて生活するのに適した環境にある。母体法人病院が隣接し、利用者は、毎月の定期受診と毎週の訪問看護によって健康チェックを受ける体制をとっている。健康で楽しい生活を利用者にとってもらうため、栄養バランスのとれた食事が大切であると考え、母体法人の管理栄養士が献立したメニューをもとに、職員が工夫をしながら美味しく、楽しく、食べてもらうようにしている。

ボランティアの訪問や地元の保育園児との交流があり、近隣住民が畑で収穫した野菜を持ってきてくれたりしている。事業所の餅つきや防災訓練にも協力してもらえよう、地域の一斉清掃等にも参加しながら、地域との関係づくりを大切にしている。

家族には遠足やその他の事業所行事に参加してもらう機会を設け、楽しみながら職員との交流を図り、利用者の日常の状態を伝えるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&jkyosvoCd=3970100271-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	令和元年8月23日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりが地域の一員として生活できる支援を柱に、家庭的な事業所であることが理念に掲げられている。開設から23年目を迎え、日常生活で起こる一人ひとりの変化や課題を見逃さないよう、職員同士が意見交換をし、新しい取り組みを提案したり、個人の介護計画に反映する取り組みをしている。事業所の処遇部会では、職員と母体法人の特別養護老人ホームの施設長が同席して、意見交換している。その場で提案結果が職員に分かり、母体法人との協力体制も築かれて、職員の活動意欲の向上にもつながっている。

紙芝居、ビューティーボランティア、ピアノ演奏、折り紙、生け花、傾聴ボランティア等の訪問を受けたり、保育園児との交流を継続して、地域に開けた活動を展開している。今年は災害対策の炊き出しの試食とサンマ大会を同時に実施し、地域の防災意識を高め、近隣住民との交流を図ることを計画している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員の目に付く場所に理念を掲示し、意識づけをしている。職員は、理念に基づき利用者の状況に応じたケアや自立支援に努めている。利用者に居心地の良い生活空間を提供し、家族や来客者にも気軽に来てもらえるよう心掛けている。</p>	<p>家庭的な事業所づくりを理念に掲げ、利用者一人ひとりがその人らしく過ごすためのケアを職員間で共有し、振り返っている。地域と共に過ごすという理念を実践し、地域交流にも力を入れている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の一斉清掃に職員が参加し、事業所の餅つき等の行事には、地域に声をかけて参加してもらっている。餅つきの餅は毎年近所にもおすそ分けして、喜ばれている。</p>	<p>町内の一斉清掃に管理者と職員2名が参加し、水路や道路の草刈り等をして住民に感謝されている。地元の保育園児とはクリスマス会で毎年交流をしている。事業所行事では、近隣の子どもと利用者、家族が流しソーメンと花火を楽しんだ。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>一斉清掃や、防災訓練、餅つき、運営推進会議等を通じて事業所の存在を地域に周知できている。在宅介護支援センター等を介して入所申し込みや相談を受けている。</p>	/	/
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者の生活場面や事業所の取り組み等を話し合う場として運営推進会議を展開しており、地域の代表者からの情報等も得ながら、相互に意見交換を行っている。</p>	<p>家族、民生委員、町内会長、地域包括支援センター職員が参加し、活発に意見交換が行われているが、事業所の活動報告が中心となっており、自己評価や外部評価結果、目標達成計画は協議されてない。議事録写しは家族に手渡して、報告している。</p>	<p>自己評価、外部評価結果、目標達成計画を協議することを期待したい。また、会議に参加する家族が固定化しており、会議録を全家族に郵送し、会議内容を周知して、参加家族を増やす工夫を期待する。</p>
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>高知市西部地域高齢者支援センターの職員が運営推進会議に参加してくれている。</p>	<p>運営推進会議のメンバーに地域包括支援センターの職員がおり、制度の相談を行うなど、連携が取れている。今年は市のグループホーム連絡協議会に出席して、連携を強める予定である。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束、虐待防止委員が中心となって、月1回の事業所処遇部会の中で検討して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>月1回、2時間程度の処遇部会を定例的に開催し、身体拘束、虐待防止を話し合い、日頃のケアでは言葉での拘束に注意している。管理者が気づいたときは、その場で注意している。年間研修計画で虐待防止をテーマに内部研修を実施しており、職員全員が参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止委員が中心となり、月1回の処遇部会の中で検討して、虐待や不適切なケアについて検討している。母体法人の研修にも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、学ぶ機会が少なく、全職員が学ぶ機会を持つようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や制度の改正、変更があった際には、利用者、家族に十分説明を行い、理解を得たうえで同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン策定の担当者会議では家族の参加を求め、ケアプラン立案以外の要望等も個々に聞くようにしている。敬老会、新年会に懇談する機会を設け、意見や要望を聞くようにしている。意見箱も設置している。	敬老会と新年会の際に家族会を開催し、家族だけで話し合う場を持っている。家族からは食べ物や衣類への要望があり、対応した。会に出席できない家族には、電話で聞き取りをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の処遇部会には、母体法人特別養護老人ホームの施設長、副施設長が参加し、職員からの意見や提案を伝える場にもなっている。内容によっては検討して、運営に反映させている。	職員は、管理者や母体法人に意見や提案ができる環境にある。毎月の処遇部会で新しい取り組みを提案し、実践することが、職員の働く意欲の向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境の整備に努め、経験年数や資格取得に応じて給与にも反映させている。希望者については正規職員として採用し、実績に応じて昇級試験を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上を目標に、内外研修への参加を年度初めに企画して、母体法人全体で取り組んでいる。本人の希望する研修への参加や、自己研鑽意欲を引き出すようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流や情報交換ができていないので、今後は積極的に市のグループホーム連絡会等にも参加して情報交換を行い、サービスの質の向上に努めていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に利用者、家族の困っていることや希望するサービスについて聞き取りを行っている。また、入所前に受けていたサービスや、本人がしていたことを継続できるようなケアプランをつくり、入所後も日々の生活に大きな差が生じないように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の思いや希望するサービスについて聞き取りを行い、ケアプランに反映させている。また、入所後も気軽に訪問してもらえるよう、入所当初から家族とのコミュニケーションを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の希望や要望をもとにサービスを計画すると同時に、事業所としての役割である自立に向けた支援の一環として、本人のできることを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に笑い合えるよう、日々の活動はできるだけ職員と一緒にいるようにしている。洗濯物の畳み、食後の後片付け等の家事活動については、利用者が積極的にするようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	職員は家族とのコミュニケーションを大切に、来所しやすい関係が築けるように努めている。また、家族と利用者の絆が途切れないよう、事業所行事に足を運ぶ機会を多くとるようにしている。		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	本人が一番懐かしみ、大切にしている場所に出かける支援をしている。	利用者一人ひとりの馴染みの関係を職員が把握し、家族や知人との関係の継続を大切にしている。定期的に馴染みの美容院に行く利用者や、職員が付き添い姉が住む故郷を訪ねた利用者もいる。知人や孫、県外に住む子どもが気軽に利用者を訪ねて来ており、継続してもらえるよう、事業所も歓迎している。	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者同士の世間話やテレビの話題で盛り上がり、職員も利用者と一緒に楽しむことができる。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	退所後もいつでも相談してもらうように伝え、家族や関係機関から退所後の本人の情報も得て、職員間で共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入所時に本人の生活歴や暮らし方の希望を聞き取り、職員は個々の思いを把握して、共有している。家族には3ヶ月に一度のサービス担当会議への参加をお願いし、参加できないご家族には電話でご希望を聞くようにしている。	個々の思いや意向は入所時に把握し、その後は、日常の利用者の変化に気づいた職員が申し送りノートに記録し、職員間で共有している。様式を工夫し、利用者の毎日の過ごし方や意向の変化が分かり易いようにして、介護計画に活かせるよう努めている。	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	入所前の面談の際に本人、家族からこれまでの暮らし方や趣味、嗜好品等を総合的に聞き取り、職員間で共有して、個々の全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者個々の生活の流れや、身体的、精神的状況の変化を把握できており、柔軟に対応している。本人のできることを活かしたケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスには本人、家族、介護職員、計画作成者が参加し、実践しているケアについて意見交換を行っている。全員の意見を集約して、現状に即したケアプランを作成している。	3ヶ月毎にモニタリングと介護計画の見直しを行っている。職員全員の意見を集約し、利用者、家族もサービス担当者会議に出席して、要望や意見を聞いている。出席できない家族には、電話で確認している。また、利用者の状態に変化があれば、その都度介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や、ケアやプランの実践状況を個別記録に残している。毎日の実践内容はチェック項目として表示し、チェック表を介護計画の見直しに活かすことができる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療面では、週1回の訪問看護師による健康チェックや突発的な疾病への対応を行っている。病状により、専門医への受診も行っている。歯科医も月1回の往診があり、利用者個々のニーズに対応することができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各分野のボランティアの来訪があり、利用者は楽しい一時を過ごしている。地元保育園児の来園や、近隣の軽費老人ホームの利用者の折り紙ボランティアの来訪も利用者の心身の励みとなり、豊かな暮らしにつながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望する医療機関を基本としているが、特に希望がない場合には、協力医を毎月職員が同行して、受診している。また、訪問看護師との連携により、主治医への情報の伝達もスムーズに行うことができる。	入所時にほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医として選択し、毎月職員が同行受診している。受診結果は、ケース記録に記録し、共有している。他の医療機関には家族同行が原則だが、できない場合は職員が付き添っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に、利用者個々の体調を報告している。緊急時等には、24時間いつでも連絡が可能で、その都度専門的な助言と看護を受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入退院時には家族と連絡を取り合い、医療機関のケースワーカーや看護師に、病状や退院見込みについての情報確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化指針の説明を行い、意向を確認しているが、看取りについては夜勤1名体制で具体的な方法が確立しておらず、重度化や医療の必要性に応じて協力医や母体法人運送の特別養護老人ホーム等に移ることができる旨を説明している。	入所時に終末期の看取りケアの確認を取っているが、希望する利用者、家族はおらず、看取り実績もない。重度化により状態に変化があった場合には、その都度意向確認書を取り交わしている。急な病状悪化の場合には、協力医への救急搬送体制がとれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の応急処置や事故の初期対応については、看護師等が中心となり母体法人全体で取り組んでいる。緊急時の対応マニュアルを職員の目に付く場所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練には近隣住民に参加を呼びかけ、協力をお願いしている。職員は、避難訓練や消火器の取り扱いを体験することで防災知識を身につけている。災害対応については、地元自治会、母体病院とが協定を締結しており、災害時には事業所を開放し、近隣住民を受け入れるようになっている。	消防員の指導のもと、火災を想定した避難訓練を年2回実施し、地域住民の参加も得ている。災害時には母体法人病院が地域の避難場所となっている。非常用の米や水、レトルトカレー等を3日分以上備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月虐待防止委員会の中で話し合いを行い、利用者のプライバシーの確保や利用者への尊重した声掛け等について話し合い、職員の気づきや対応に反映させている。	母体法人が接遇研修を開催し、事業所の職員も受講している。利用者の呼称は姓で呼び、慣れ合いや抑制の声掛けに注意している。コミュニケーションが苦手な利用者は座席を一人用にセットして、対応に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々の暮らしの中で、コミュニケーションを大切に、利用者が希望や思いを言いやすい関係を築き、自己決定ができるような言葉がけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、できるだけ自由に過ごしてもらい、利用者の意思を大切にしている。自室で過ごす時間が欲しい利用についても、各種活動への参加の無理強いはせず、本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ビューティーボランティアが来訪し、希望に応じて化粧やマッサージをしてもらうほか、職員と洋服や化粧品を買いに出かけている。ヘアカラー、カットの希望者は2ヶ月に1回程度個別に美容院に出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材も使用しながら、皮むきや切るのを手伝ってもらったり、食後の食器類の後片づけにも参加してもらっている。駐車場でさんまを焼いたり、流しソーメンをしたりと、楽しみながら食事ができる機会も設けている。	メニューは母体法人の管理栄養士が立てるが、職員や利用者の希望で変更している。利用者は職員と食材を買いに行き、食事の準備や包丁使いなど、できることを職員と一緒にしている。手打ちうどんを利用者と一緒に作り、楽しく食べる工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立ををし、バランスの良い食事を提供している。食材もメニューに応じて届くようにしており、新鮮で健康に留意した食事を提供している。水分摂取が少ない利用者には、嗜好に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助や見守りをしながら、毎食後の口腔ケアを支援している。夜間は入歯洗浄剤に浸し、清潔保持に努めている。歯科医訪問が月1回あり、口腔ケアの指導や個別の口腔ケアをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者個々の排泄パターンに合わせて声掛けし、トイレ誘導を行っている。排泄用品については、出来るだけ自分の下着を使用してもらい、見直しが必要な場合には処遇部会やミーティング時に検討している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレでの排泄に努めている。夜間は3時間毎に声掛けをしている。布パンツにパットが7名、他の利用者は紙パンツで過ごしている。夜間頻尿の利用者が、入所後には薄いパットの生活に改善できた例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には、毎朝牛乳を飲んでもらっている。10時の水分補給、3時のおやつ、入浴後の水分補給、それ以外も必要に応じて食物繊維を摂取して、便秘の解消につなげている。1日1500CC以上の水分摂取を目標にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴にマンツーマンで対応し、個々に応じた入浴介助を提供して、自立支援に努めている。毎日入浴する利用者もいる。同性介助希望の利用者には、女性職員が対応している。入浴時間については、毎日午後から入浴してもらっている。	車いすで移動ができるゆとりのある浴室では、職員と1対1で、毎日午後2時～4時半の間に入浴を支援している。希望すれば毎日入浴ができ、入浴を希望しない利用者には、声掛けなどの工夫で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分から早めに自室に戻りベットに入る利用者や、他の利用者と一緒にリビングでテレビを見て、ゆっくり過ごしたりと、個々の生活習慣や意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時には、マニュアルを遵守し、職員2名で確認と介助を行っている。処方箋は個人ファイルに保管し、薬の変更があれば、口頭や申し送りノートで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者は、洗濯物の畳みや食後の後片付等には自発的に参加している。裁縫が得意な利用者には、雑巾を縫ってもらっている。また、全員が生け花クラブに参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	遠足や季節の花見、外出に出かけている。遠足には全員で出かけ、家族にも参加してもらっている。母体法人他施設の職員の応援もお願いしている。買い物や美容院通い等には、利用者の希望や状態に応じて対応している。	涼しい日には、近くの駐車場に散歩に出かけている。事業所の車で近くの美容院に行ったり、スーパーで買い物を楽しむ利用者もいる。桜の花見や遠足では、関連の他施設からの協力も得て、家族や地域の人との交流が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の進行に伴い金銭管理が困難になっており、事業所で預かっている。自分で持っていないと不安になる利用者は財布に入れているが、使うことはなく、持つことで安心感を得るためのものとなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が携帯電話を持たせている利用者は、希望があれば職員が対応するようにしている。手紙は本人の意欲がなくなり、やり取りはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、日中は殆どの利用者がリビングで過ごしている。さほど広い空間でもないが、適度に落ち着いた雰囲気があると思われる。	ゆったりとして明るい共用のリビングには、ソファとテーブルが置かれ、食事をしたり日常生活に使っている。家族会の場にも活用され、落ち着いた雰囲気である。ボランティアの協力で花を全員の利用者が生けている。玄関やリビング、居室に生け花を飾り、季節が身近に感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気分により自室で自由に過ごすことができる。2階にはゆったりできるスペースがあり、下肢筋力アップのため、階段昇降が可能な利用者には利用してもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、本人の使い慣れた物の持参をお願いしている。転倒リスクがある利用者に対しては、家具の配置を配慮したり、自分で決められる利用者は、一緒に家具の配置を考えている。	筆筒、収納庫、ベッド、机は事業所の備え付けとなっている。衣装ケースやテレビ等を利用者の好みで持ち込んでいる。各居室にトイレもある。収納庫が広く、持ち物が整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助を要する利用者等、それぞれの身体状況に応じて対応をしている。歩行については、階段の昇降や散歩等を行い、下肢筋力の低下防止に努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない